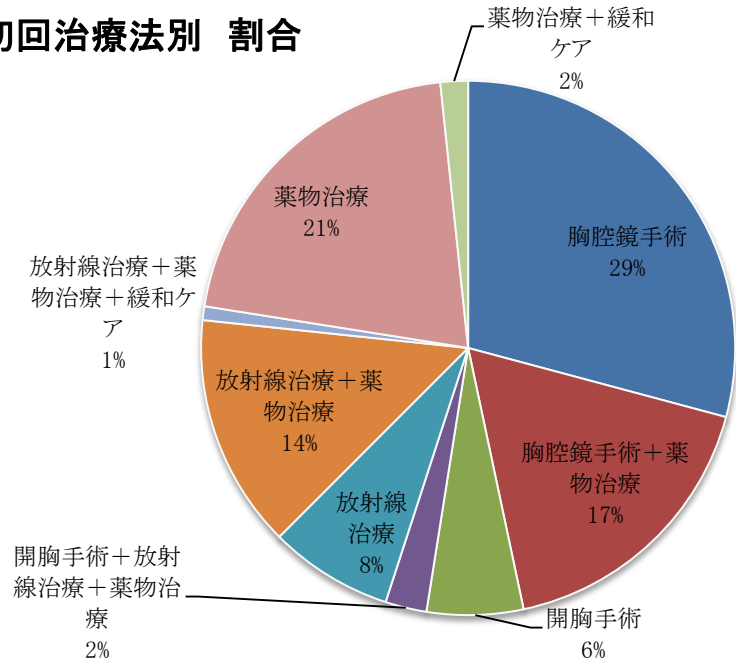
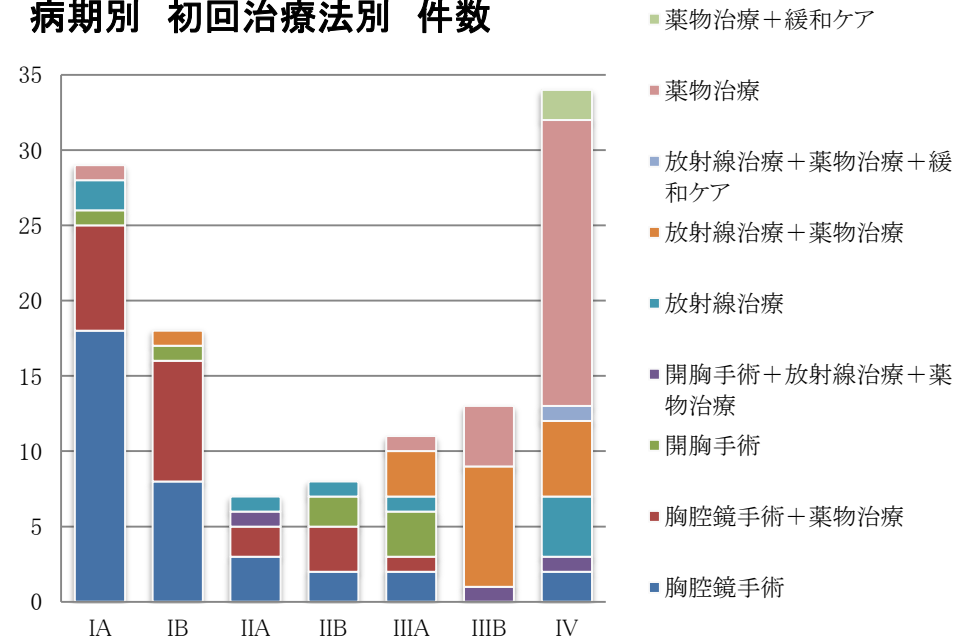


西神戸医療センター 2015年の肺癌治療について

初回治療法別 割合



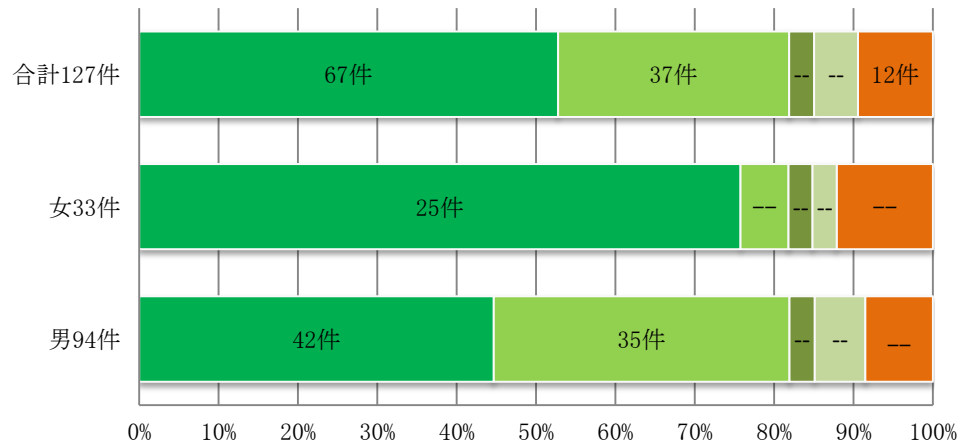
病期別 初回治療法別 件数



組織型別 割合

(10件未満は個人情報保護のため--表示)

- 非小細胞癌:腺癌
- 非小細胞癌:扁平上皮癌
- 非小細胞癌:大細胞癌
- 非小細胞癌:その他
- 小細胞肺癌



当院では、呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科が連携して、手術・放射線治療・薬物治療などを協力して行い、集学的に治療効果を高めるべく努力しています。また、院内緩和ケアチームのアドバイスを受けながら、患者さんの quality of lifeを配慮した診療を忘れないことにも留意しています。

薬物治療には、以前からある通常の抗がん剤に加え、分子標的薬や免疫療法薬などが新たに増え、治療効果が確実に高まっています。その一方で、治療に伴う副作用は多彩となっており、その対策には種々の診療科の協力が不可欠です。当院は各診療科がほぼ揃った総合病院ですので、新薬を含めた様々な抗腫瘍薬の副作用に対しても、迅速かつ適切な対応が可能となっています。

手術は、安全かつ確実に、術後合併症の発生を抑えることに特に留意しています。術式は、手術創が小さく身体的な負担の少ない胸腔鏡手術を多くの症例で行うようにしています。

わが国で最も発生頻度が高い組織型である腺癌は、男性の肺癌の全体の40%、女性の肺癌の全体の70%以上を占めており、当院では、男性の肺癌の47%、女性の肺癌の76%が腺癌となっています。組織型と病期に基づいて、全身の状態や年齢、心臓や肺の機能、合併症なども含めて総合的に検討し、治療法を決定していきます。